改訂版

第 55 回中国地区英語教育学会・研究発表会要旨集

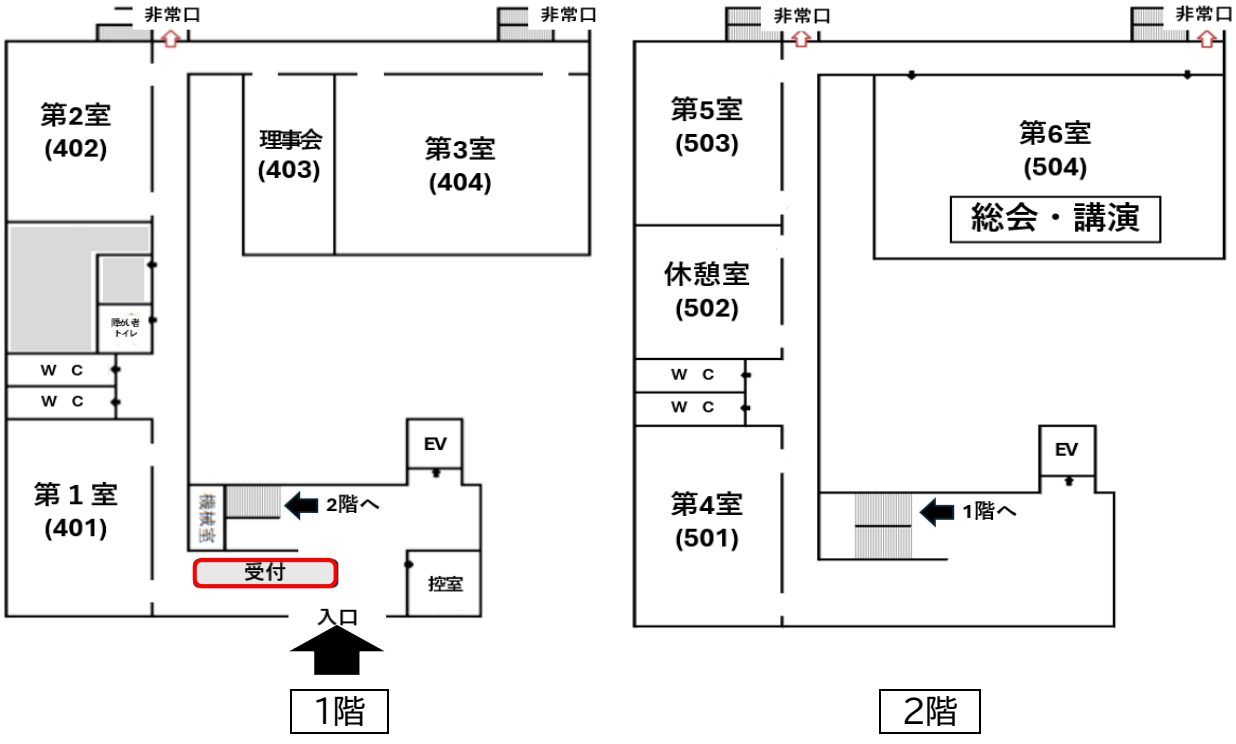
［日時］令和 6 年 6 月 22 日（土） 12:00～受付開始
［場所］島根大学　松江キャンパス　教養講義室棟 2 号館
（島根県松江市西川津町 1060）
［会費］正会員　：無料
非会員：一般 2,000 円／学生（含大学院生）1,000 円（資料代として）
［日程］11:00～12:30　理事会（教養講義室棟 2 号館　403 演習室）
12:00～　受　付（教養講義室棟 2 号館　玄関）
12:50～13:30　総　会（教養講義室棟 2 号館　504 教室）
13:40～14:50　特別講演（教養講義室棟 2 号館　504 教室）
15:00～16:50　自由研究発表（教養講義室棟 2 号館　各室）

✧　当日参加も受け付けております。なお，非会員の方は，当日，参加費を受付でお支払いください。（現金のみでの対応となります。）

○ 各室スケジュール

	第 1 室 (401)	第 2 室 (402)	第 3 室 (404)	第 4 室 (501)	第 5 室 (503)	第 6 室 (504)
12:50-13:30	—	—	—	—	—	総会
13:40-14:50	—	—	—	—	—	特別講演
15:00-15:30	研究発表	研究発表	研究発表	研究発表	研究発表	—
15:40-16:10	研究発表	研究発表	研究発表	研究発表	研究発表	研究発表
16:20-16:50	研究発表	研究発表	研究発表	研究発表	研究発表	研究発表

・　401, 402, 404…1 階／501,503, 504…2 階の講義室です。
・　2 階の 502 教室を休憩室としています。



◆研究発表をなさる方は以下の点にご留意ください。

- 発表時間は 20 分，質疑応答は 10 分とします。
- 計時係を各室に配置し，15 分で 1 鈴，20 分（発表終了時間）で 2 鈴鳴らします。
- 司会者は依頼しておりませんので，質疑応答は発表者で行ってください。
- 当日資料を配付される発表予定者の方は、各自の判断でご準備ください。残部はお持ち帰りください。
- 会場にはプロジェクターと HDMI ケーブルのみ用意しております。その他の必要な機器類（パソコン，端子変換アダプタなど）はすべてご持参ください。

特　別　講　演

13:40～14:50　特別講演(教養講義室棟 2 号館　2階　504 教室)

講 演 者：京都大学 国際高等教育院　教授　柳瀬陽介先生

題　　目：日本近現代史から考える英語教育における AI 活用の方針

―自律的・文化越境的・言語内容統合的な英語学習のための AI 利用―

○ 自由研究発表

第 1 室(401)[1 階]

15:00 ～ 15:30

初等英語科でのアクティブ・ラーニングにおける教員の学習支援
－反転授業における学習意欲－

國本　和恵（岡山理科大学）
竹野　純一郎（岡山理科大学）

反転授業を質問紙法分析・自由記述の共起ネットワーク分析で調査した結果、「反転授業学習意欲」の高い大学生は「英語学習意欲」が高く、講義前提示教材は電子文書でもビデオと同様に学習を深めることがわかった。「学習支援」では、①反転授業学習法の明確な指示、②学習プロセス支援ワークシートの提供、③講義時間外での学習不足学生への対策、④ICT 機器使用法の具体的説明、⑤英語の楽しさを知ることによる英語指導意欲の向上、などの重要性が示された。

15:40 ～ 16:10

経験豊かな外国語指導助手によるクラスルームイングリッシュの事例報告
―小学校 3 年生への初めての外国語活動より―

阿部　聡生（岡山市立大元小学校）
千菊　基司（鳴門教育大学）

2020 年より小学校 3 年生から週 1 回の外国語活動が実施されることとなった。本事例報告では，経験豊かな外国語指導助手が，担任教員とのチームティーチングで公立小学校 3 年生に行った初めての授業を報告する。録画した発話の文字起こしも行い具体的な指導方法を提示しながら，外国語の授業を受けることが初めての児童に対しても英語で指示を理解させるための工夫や配慮を実際の事例を通して紹介する。

16:20 ～ 16:50

Enhancing Learner Autonomy Through Japanese Elementary School English Textbooks: A Comparative Study of Revised Editions

上田　美和（松江市小学校外国語教育指導協力員）

The 2017 MEXT Course of Study revision emphasizes “proactive, interactive, and deep learning.” These objectives must be achieved in English classrooms using the revised English textbooks for fifth and sixth graders in Japanese elementary schools starting in 2024. This study reviewed six of these textbooks to assess their support for learner autonomy, using a checklist covering eight stages: identifying needs, setting goals, planning, selecting resources, selecting strategies, practicing, monitoring progress, and assessment and revision. The promotion of learner autonomy in these textbooks varied widely, from 62.5% to 12.5%. However, all textbooks should promote learner autonomy at all stages of learning.

第２室(402)[1階]

15:00 ～ 15:30

令和５年度 全国学力・学習状況調査 中学校英語の「話すこと（発表）」における低正答率4.2%についての一考察

中野　修一（就実大学）

2023 年４月に令和５年度 全国学力・学習状況調査が実施された。中学校英語の調査は平成 31 年以来の２回目の実施であった。「話すこと」の正答率が 12.4%という低さであったことがメディアで大きく報じられた。さらに、「話すこと（発表）」における正答率は 4.2%と非常に低い。この要因について、文部科学省 国立教育政策研究所のデータと教職課程の大学３年生 10 人を対象とした再調査及び記述式アンケートの結果を基に分析している。

15:40 ～ 16:10

自由進度学習のための『自学ポートフォリオ』
～クラウドで完結する校内外学習システム～

山田　賢治（笠岡市立新吉中学校）

３年前から本学会で提唱してきたポートフォリオとラウンドシステムの融合は、英検 IBA などの定点観測で大きな伸長を見せ、全国へと広がりつつある。また、もともと各ラウンドの習熟度を見える化するために始めたポートフォリオが、いまや自由進度学習のためのプラットフォームとして機能し始めており、そのポテンシャルをここで検証する。

16:20 ～ 16:50

題材文の多読と表現音読が言語出力に及ぼす影響の分析

水川　航生（安芸太田町立加計中学校）

多読は、読解の速度や内容理解力、第二言語に対する情意面の向上など、特に言語入力（インプット）において効果があることが、先行研究において数多く報告されている。その一方、多読が、スピーキングなどの言語出力（アウトプット）を向上させるかどうかに関する実証研究は少ない。本研究は、理解可能な題材文を、表現音読やシャドーイングを併用して数多く読むことで、アウトプットにどのような影響が及ぶのか、行動分析等によって考察するものである。

第３室(404)[1階]

15:00 ～ 15:30

ESP 学習者の発表能力の熟達について ―入学期の理系学生に焦点をあてて―

吉川　正美（English Learning Support）

学生生活サイクルや心理学的特徴、学習者の心理を考慮して、学生エンゲージメントの向上維持を支援できるように、理系学生を対象とした ESP 教育プログラムを開発した。学生が示した要件を満たす対話型及びプレゼンテーション型の言語活動を含むプログラムを実践し、本研究ではその効果を検証する。回想的自己評価法による調査結果を分析したところ、CALP 型発表能力の熟達に対する自信が認められ、主体的に学修を継続できるようになっていることが判明した。

15:40 ～ 16:10

CLIL の 4Cs の視点を取り入れた海事英語の授業実践（２）
―海事マンガ教材の開発に基づいて―

二五　義博（山口学芸大学）

本発表は、昨年の本学会での発表の続編であり、本テーマの最終報告である。発表者は、大学生向けに海事マンガ教材を開発し、CLIL の 4Cs の視点より、「内容」では救助や船舶避航などのオーセンティックなテーマ、「言語」では航海・機関・通信の専門用語を用いる英語コミュニケーション、「思考」では場面の予測や問題への対処法、「協学」ではロール・プレイ等の活動を取り入れた授業実践を報告する。

16:20 ～ 16:50

中学生の自主的な読みにつなげる英語絵本の読み聞かせについて

Mayumi IKEGAMI（吉備国際大学）

本研究は、小学校で活用されている読み聞かせを中学生の学習意欲の喚起を目的として用い、特に、読むことへの関心・意欲を高める効果について検証する。英語絵本の画像をパワーポイントで提示し、小学校で多用されるチャンツや歌を取り入れながら読み聞かせをすることにより、中学生でも高い満足感が得られ、自分で絵本を手に取って読もうとする意欲を喚起することができた。また、選書については、日本の出版社の絵本より、英語圏で作成された絵本の方が生徒の心に残りやすいことが明らかになった。

第４室(501)[2階]

15:00 ～ 15:30

主語－動詞の数一致に関する学習困難性のモデリング
―文法性判断データによる多角的検討―

木谷　美彩（県立広島大学大学院生）

本研究では，日本語母語話者における主語―動詞の数一致に関する学習困難性を解明するための基礎研究として，日本語母語英語学習者（N = 32）を対象として，文法性判断課題を実施した。階層ベイズモデルによって，主部の構造（複合名詞，等位接続名詞句，準等位接続名詞句，不定代名詞）からなる言語的要因に加え，メタ認知弁別性，参加者の熟達度の関係性を総合的に分析した結果，主部の構造に由来する正答率の変動が観察された。

15:40 ～ 16:10

英語前置詞指導にどう取り組むか
―高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）の目標達成を目指して―

和田　考平（神奈川県立綾瀬西高等学校）

高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）英語コミュニケーション I 〔知識及び技能〕には「前置詞の用法」の記載があり、「活用できる技能を身に付ける」よう育成すること目指している。先行研究では、認知言語学的観点による英語前置詞指導が学習者に理解しやすく、学習しやすいという一定の成果が見られる。本発表では、Japanese EFL Learner's Corpus における前置詞 in の「時間的用法」の一部誤用を踏まえて、どのような前置詞指導を経ることで高等学校学習指導要領の目標達成に寄与でき得るかを考察する。

16:20 ～ 16:50

日英両言語の容認度から見る無生物主語構文の学習困難性
―言語転移の可能性を探る―

升田　智紀（修道中学校・修道高等学校）

EFL 学習者にとって，母語になじみのない表現を学習するのには困難を覚える。本発表は，そのような表現の一例として無生物主語構文を取り上げ，日本の高校生 115 名を対象に実施した容認度診断テストの結果を分析し，日英語間の言語転移から生じる学習困難性について叙述，説明することを目的とする。同時に，日本語には馴染みのない英語表現について学習者はどのように認識しているか，人間の認知能力との関連から説明し，学校教育における指導の重点目標について明らかにする。

第 5 室(503)[2 階]

15:00 ～ 15:30

Differences in test-taker utterances between video-conferencing and semi-direct speaking test modes

Koki SEKITANI（Toyo Eiwa University）

This study compared the utterances produced by test-takers in two modes of a speaking test: video-conferencing mode and human-to-machine semi-direct mode. The results indicated that in the video-conferencing mode, test-takers' utterances were more fluent and grammatically accurate but less complex. Additionally, test-takers in this mode exhibited more signs of agreement, such as "yes" and "OK," and generated more interrogative utterances. Conversely, in the semi-direct mode, test-takers used more transitional words such as "if," "because," and "also," resulting in longer and more complex sentences. This implies that the two modes elicit qualitatively different types of speech.

15:40 ～ 16:10

Computer-Based Testing による評価法が受験者と指導者に与える波及効果
－中学生の技能統合型ライティングの評価事例－

新美　徳康（広島大学大学院生）

Computer-Based Testing（CBT）は受験者の解答に応じた即時的な支援と詳細な結果レポートの提供が可能になる。本研究は技能統合型ライティングを評価する CBT の受験者と指導者への波及効果を調査した。CBT の実施と結果レポートの提供が学習と指導に役立つかを調べるため、受験者には CBT 実施後に質問紙を、指導者には結果レポート提供後にインタビューを行った。その結果、CBT による評価法は今後の学習と指導への波及効果に関するプラスの証拠を示した。

16:20 ～ 16:50

AI による音読の「正確さ」評価の教育的活用についての考察
－学習者の母語話者英語志向との関連性－

池田　幸恵（広島商船高等専門学校）

AI 技術の急速な発展により、AI を利用して学習者の音読を評価することが容易となってきている。特に母語話者英語の発音と比較して学習者の音読の「正確さ」を評価することは AI が得意とするもので、スコア評価として実装されやすい機能となっている。本研究は、AI による音読の「正確さ」のスコア評価と学習者の母語話者英語志向の関連性を検討することで、AI による音読評価を活用することへの教育上の示唆を得ることを目的とする。

第 6 室(504)[2 階]

15:40 ～ 16:10

第二言語学習における動機の文化的差異：インドネシアと日本の EFL 学習者を対象とした動機づけ自己システムによる比較研究

高橋　俊章（山口大学）
Putu Ayu Asty Senja Pratiwi (Udayana University)

本研究では、インドネシアと日本の EFL 学習者における L2 動機づけの異文化差異を L2 動機づけ自己システムを用いて調査した。アンケートを通じて収集したデータ（インドネシア大学生 100 名と日本人大学生 175 名）を分析し、両グループ間の動機づけ要因のパターンを特定した。その結果、「義務的 L2 自己」が日本の学習者の動機づけに正の影響を与え、「理想的 L2 自己」がインドネシアの学生の動機づけに正の影響を与えることが判明した。

16:20 ～ 16:50

英語プロフェッショナルを目指す学生に対する語彙指導
―語彙知識の深化・拡大と学習方略の定着を目指して―

山内勝弘（広島大学）

英語学習を進める上で、より多くの語彙を身につけ、使えるようになることは多くの学習者が掲げる目標の一つであろう。本発表では高度な英語運用能力を習得したい学習者に向けて開講した語彙学習に特化した授業実践について報告する。特に、(1)語彙サイズの測定と拡大、(2)語彙の産出的な使用、(3)語彙知識の深化・多面化、(4)語彙学習方略の指導と共有、という 4 つの側面に焦点を当てた指導について、その成果と課題を論じる。

【会場：島根大学 松江キャンパス】

＜キャンパス内の経路＞

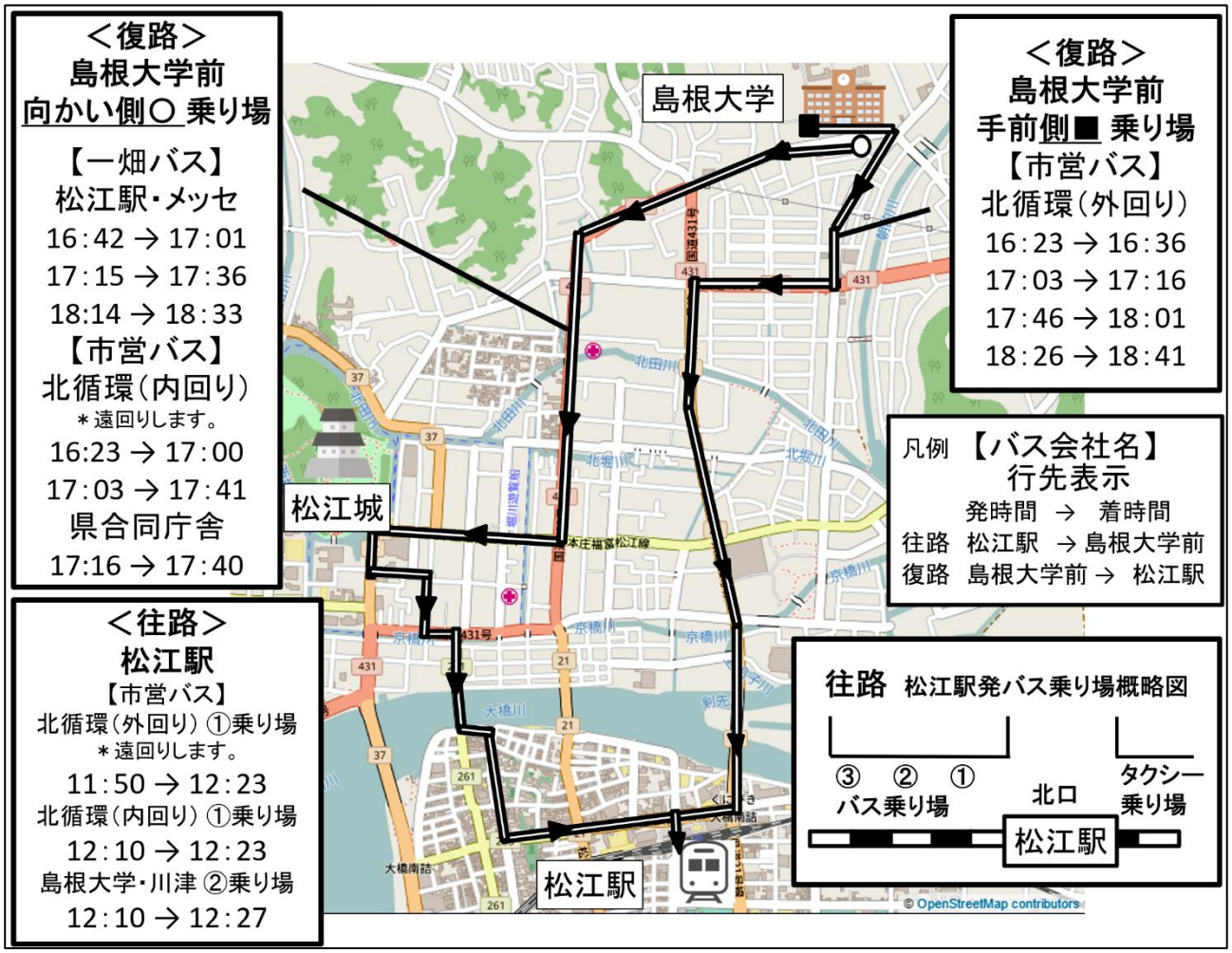
正門から入ってまっすぐお進みください。左手の奥に教養講義室棟２号館がございます。

＜交通アクセス＞

https://www.shimane-u.ac.jp/nyushi/transport_access/campus_map/campus_map01.html

＜近隣タクシー会社＞

- 日本交通株式会社：0852-21-5127
- 松江一畑交通株式会社：0852-32-1828
- 第一交通株式会社：0852-21-5000
- 株式会社クラウンタクシー：0852-21-5151
- 島根日本交通株式会社：0852-23-3151
- 生馬タクシー：0852-36-8555

＜自由研究発表終了時刻ごろ以降のバス案内＞

複数の路線があるため分かりにくくなっています。松江駅に到着するまでの所要時間が短いのは手前側バス停の「北循環外回り便」です。運賃 210 円で交通系 IC カードも利用できます。